

三枚洲の江戸前ハマグリ

かつてハマグリは東京湾を代表する貝のひとつでした。一時期すっかり姿をみかけなくなったものの、最近では東京湾奥でもみられるようになってきており、当協会の調査においても、2012 年頃から採捕される数が増えてきました。2019～2021 年に三枚洲で採捕されたハマグリの殻長組成を図に示しました。この3年間の組成をみると、各年とも様々なサイズのものが採捕されており、採捕されるサイズは年によって異なるものの、35～55mm（概ね2～4 齢の個体）サイズのものが多く採捕されました。また、成長に6年以上かかる殻長80mm以上の大型のハマグリも採捕されているなど、順調に世代交代が行われているものと思われました（写真）。

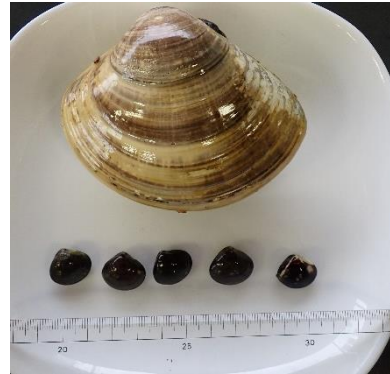


写真 東京湾で採捕されたハマグリ

さらに、最近羽田～多摩川河口で行った調査でも小型から大型のハマグリ（殻長 8.7～74.2mm）が採捕されています。ハマグリの幼貝は河口に多く、成長に伴い深場に移動すると言われています。羽田周辺でもハマグリが再生産している可能性があり、江戸時代の名物であった羽田蛤*の復活を望んでやみません。

東京都湾奥に残る三枚洲や多摩川河口などの貴重な干潟で、江戸前ハマグリは順調に復活しているようです。

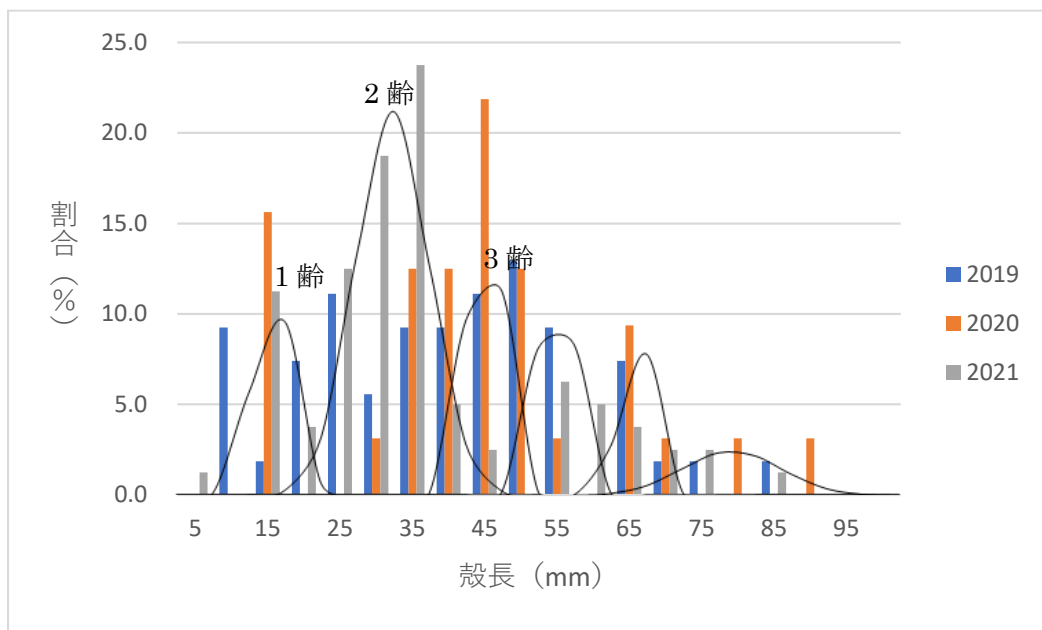


図 ハマグリの殻長組成（2019～2021 年）

（実線は殻長組成による年齢解析結果）

*「新江戸前の貝図録」（2016）、一般財団法人 東京都内湾漁業環境整備協会 pp.68-74.